

- ◆企画名 Let's communicate  
日 程 平成 23 年 10 月 13 日 (木)、10 月 18 日 (火)  
場 所 総合学生会館凜風館 4 階 ミーティングルーム  
参加者数 13 日 : 15 名 (ピア・サポータ)、18 日 : 11 名 (ピア・サポータ 8 名、一般参加者 3 名)

## 目 的

日常生活においてコミュニケーションをとることは様々な場で必要である。そこで、コミュニケーションをとる場の 1 つとして、コミュニケーションをとることが苦手な学生や、色々な人と話したいと思っている学生が気軽に話すことができる場を提供する。また、グループワークやグループディスカッションを体験することで、サポータと参加者が共に「コミュニケーションをとること」の楽しさ・難しさを感じることを本企画の目的とする。

## 内 容

### 【ピア・サポータ向け】

キーワードが書かれたカードを人数分用意し、受付時に各参加者に 1 枚ずつ配布した。その後、自分のキーワードと共通点のあるキーワードを持った人を探し、4～6 人のグループを作った。グループに分かれた後、グループ内で順番に自分をモノや漢字に例えて自己紹介をした。次にお題が書かれたカードを各グループ 2 枚ずつ引いて、そのお題でフリートークを行った。プランニングでは「もしも自分が〇〇コミュニティに所属していたら・・・」というテーマで内容を詰め、発表できる程度に模造紙にまとめた。内容の書かれた模造紙をもとにグループごとに発表した。

### 【一般参加者向け】

人数が少数だったため、人数が均等になるようにグループを振り分けた。グループ内で順番に自分を漢字一字で例えて自己紹介をした。次にお題が書かれたカードを各グループ 2 枚ずつ引いて、そのお題でフリートークを行った。プランニングでは「大学でやりたい企画」について、まず各参加者が案を紙に書き、挙げたすべての案をグループ内で共有し、企画したい案を練り上げた。その後、詳細を話し合いながら企画の概要を模造紙に記入し、グループごとに作成した模造紙を持ち口頭で発表した。

## 感 想

事前準備を計画的に進めることができたので、告知の時間を長く設けることができた。しかし、一般参加者が少数だったので、次回の企画から改めて告知方法を考える必要がある。企画のニーズがあるかということももう一度考えて、本当に学生の望む企画を行っていきたい。

当日はピア・サポータも一般参加者も会話がはずみ、明るい雰囲気でも企画を進めることができた。また、学生同士の新しい交流が芽生える良い機会となった。グループの人数が適当だったのでみんなが話をでき、サポータも話し合いをうまく進められたので良かったと思う。本企画の目的である、「色々な人と話したいと思っている学生が気軽に話すことができる場を提供する。」という目的は概ね達成できたのでは、と考える。

## 改善点

### 【ピア・サポータ向け】

- ・準備の段取りが悪く、また参加者の集合が遅かったため企画の開始時間が予定よりも遅れてしまった。→準備を含めたりハースルを行う。開始時間と別に集合時間を設ける。
- ・プランニングの時間が少なかった。→重要度によってワークの時間配分を考える。

### 【一般参加者向け】

- ・しおりやビラが余り、紙の無駄となってしまった。→効率の良い広報の仕方を考える。